

2014 前期 数理社会学 I

4月18日(金) 講義

出席確認課題の解答例

第2回目進化生態学の基礎1

担当: 中丸 麻由子

マーティン & ベイトソンによる生物 への4つのなぜ？

- 「なぜ、赤信号で車は止まるのか？」
 - 至近要因：赤い光に脳が刺激されブレーキを踏むから
 - 発生要因：自動者教習所で教え込まれたから
 - 歴史要因：赤で止まるという規則が歴史的に成立したから
 - 究極要因：止まる方が有利（安全）だから

人の場合もこの問いはあてはまるだろう。
いままでは、究極要因の研究が少なすぎた。

自然選択説

例として・・・

- 親による子の世話
- 道徳性(出席課題)
- 長谷川真理子(2002)「生き物をめぐる4つの「なぜ」」集英社新書 を参考になっている

道徳性

- 道徳の本質
 - 自己と他者との間で葛藤が存在する時、自己の適応度（生存率、繁殖率）の最適化を抑えて、他者の適応度の増大をはかることにあるだろう

4月19日出席確認課題

- 「マーティン & ベイトソンによる生物への4つのなぜ？」に即して、道徳性の起こる4つの要因を説明すること

道徳性の起こる4つの要因

- 至近要因
 - 自分の置かれている状況が道徳的な葛藤をもたらす事を認識し、道徳性を感じる事、つまり「〇〇をしてはいけない」「〇〇をすべきである」と感じる
- 発達要因
 - 成長と共に道徳の発達
 - 心の理論、共感、自己抑制が道徳性の発達のキーだろう
 - 心の理論：人間が誰でも持っている、他人の心の状態を類推する脳の機能

道徳性の起こる4つの要因

- 究極要因
 - 互恵的利他行動の進化が道徳性の進化の基盤の一つ→7月講義で協利行動の進化
- 系統要因
 - 人以外の生物、とくに霊長類などで道徳の元になる形質を探る研究：社会性、他者理解、共感
 - 心の理論は霊長類であるのかどうか？→萌芽的にある

道徳性の起こる4つの要因

- 系統要因(つづき)
 - 人特有の道徳性には、強力な自己の概念、自意識、抽象化能力 が必要であろう
 - 自省の力のためには、自己という認識が必要
 - 他者に見られて恥ずかしくない自己像の形成→自意識
 - 規範や行為の抽象化→規範の内在化、他者・自分・社会の関係の認識が可能